

秋 高 連  
創立 20 周年記念誌

在京秋田県高等学校同窓会連合会

# 目 次

|                            |        |         |    |
|----------------------------|--------|---------|----|
| <u>総会懇親会風景</u>             |        |         | 4  |
| <u>挨拶 創立 20 周年を迎えて</u>     | 会 長    | 澤木 誠一   | 11 |
| <u>祝辞 「至純の郷土」を見守って</u>     | 秋田県知事  | 寺田 典城   | 12 |
| <u>祝辞 力強く踏み出す一歩</u>        | 秋田県教育長 | 小野寺 清   | 13 |
| <u>祝辞 ふるさと秋田の力強いサポーター</u>  | 秋田市長   | 佐竹 敬久   | 14 |
| <br>                       |        |         |    |
| <b>各校同窓会の現況</b>            |        |         |    |
| <u>大館鳳鳴高等学校 東京鳳鳴会</u>      | 顧 問    | 武藤 正一   | 16 |
| <u>大館桂高等学校 かつら会東京支部</u>    | 支部長    | 鷺見千代子   | 17 |
| <u>花輪高等学校 東京支部花栄会</u>      | 会 長    | 佐藤 久志   | 18 |
| <u>小坂高等学校 東京支部</u>         | 事務局長   | 梁瀬 久    | 19 |
| <u>鷹巣農林高等学校 同窓会 東京伊勢堂会</u> | 会 長    | 布田 祐五郎  | 20 |
| <u>米内沢高等学校 関東支部爽風会</u>     | 会 長    | 武石 鉄昭   | 21 |
| <u>能代西高等学校 関東同窓会東雲会</u>    | 幹事長    | 友成 穂秀   | 22 |
| <u>能代工業高等学校 東京地区支部東籟会</u>  | 会 長    | 藤本 勝久   | 23 |
| <u>能代北高等学校 松蔭会東京支部</u>     | 支部長    | 石渡 澄子   | 24 |
| <u>能代高等学校 東京同窓会</u>        | 会 長    | 畠 豊彦    | 25 |
| <u>能代商業高等学校 東京支部</u>       | 会 長    | 片谷 勉    | 26 |
| <u>五城目高等学校 東京森山会</u>       | 会 長    | 武埴 利男   | 27 |
| <u>男鹿海洋高等学校 関東エリア会</u>     |        | 船木 俱子   | 28 |
| <u>金足農業高等学校 東京同窓会</u>      | 会 長    | 佐藤 規    | 29 |
| <u>秋田商業高等学校東京雄水会</u>       | 幹事長    | 伊藤 晶    | 30 |
| <u>秋田経済法科大学附属高等学校関東支部</u>  | 代 表    | 近藤 正司   | 31 |
| <u>秋田高等学校 東京同窓会</u>        | 幹 事    | 佐々木 菜穂子 | 32 |
| <u>秋田北高等学校 あげまき会東京支部</u>   | 支部長    | 刈田 カイ   | 33 |
| <u>秋田南高等学校 東京支部</u>        | 副支部長   | 榎 利美    | 34 |
| <u>秋田中央高等学校 東京一交会</u>      | 会 長    | 保坂 悟    | 35 |
| <u>秋田工業高等学校 東京秋工会</u>      | 顧 問    | 笹淵 茂    | 36 |
| <u>角館高等学校 東京若杉会</u>        | 副会長    | 中山 文夫   | 37 |

|                                    |      |        |    |
|------------------------------------|------|--------|----|
| <a href="#">角館南高等学校 駒草同窓会東京支部</a>  | 支部長  | 能見 京子  | 38 |
| <a href="#">大曲高等学校 青麻会東京支部</a>     | 事務局長 | 菅原 良孝  | 39 |
| <a href="#">大曲農業高等学校 東京大農会</a>     | 会 長  | 藤井 十郎  | 40 |
| <a href="#">六郷高等学校 関東支部</a>        | 支部長  | 高橋 實   | 41 |
| <a href="#">横手高等学校 東京美入野同窓会</a>    | 会 長  | 柴田 秀二  | 42 |
| <a href="#">横手城南高等学校 银杏同窓会東京支部</a> | 支部長  | 小林 峰子  | 43 |
| <a href="#">横手工業高等学校 関東同窓会</a>     | 幹事長  | 高橋 実   | 44 |
| <a href="#">本荘高等学校 東京同窓会</a>       | 会 長  | 飯田 金廣  | 45 |
| <a href="#">由利高等学校 ゆりの会東京支部</a>    | 支部長  | 小笠原 了子 | 46 |
| <a href="#">由利工業高等学校 東京同窓会桃源会</a>  | 会 長  | 畑山 敏也  | 47 |
| <a href="#">西目高等学校 新志芽会東京支部</a>    | 支部長  | 兵頭 喜一  | 48 |
| <a href="#">矢島高等学校 拓道同窓会関東支部</a>   | 支部長  | 小石 実   | 49 |
| <a href="#">湯沢高等学校東京愛宕会</a>        | 会 長  | 長瀬 良市  | 50 |
| <a href="#">湯沢北高等学校鈴懸同窓会東京支部</a>   | 会 長  | 山田 雅子  | 51 |
| <a href="#">湯沢商工高等学校 首都圏まほろば会</a>  | 幹事長  | 石垣 勉   | 52 |

## 資料

|  |    |
|--|----|
| <a href="#">在京秋田県高等学校同窓会連合会会則</a>      | 54 |
| <a href="#">在京秋田県高等学校同窓会連合会(秋高連)年表</a> | 55 |
| <a href="#">各高校所在地案内図</a>              | 59 |
| <a href="#">編集後記</a>                   | 60 |

在京秋田県高等学校同窓会連合会 総会・懇親会風景



澤木会長の挨拶



寺田県知事の挨拶



澤木会長と寺田知事



懇親会風景



寺田県知事と共に



来賓のご挨拶



坂東元副知事のご挨拶



来賓のご挨拶



小野参議員と澤木会長



懇親会風景



小野参議員、秋田北高東京支部長と共に



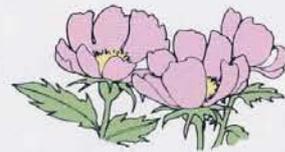
大館柱高校の皆さんと



佐々木前秋高連会長と澤木会長



控室にて



懇親会風景



H16. 秋高連親睦会にて





H9.7.15 県民歌斉唱



H 9.7.15 秋高連



H14.7.12 秋高連総会 G.HILL



H10.7.15 秋高連総会  
鳳鳴、桂高校出席





H15.7.15 秋高連総会 小野清子参議員と



H16.7.19 小野清子参議員  
祝辞（秋田北高校OG）



H11.7.13 秋高連総会



H9.11.2 隅田公園  
秋田まつり（花まる）応援



能高同窓会メンバー



H11.10 湯沢雄勝地区訪問旅行





H11.7.13 秋高連総会



H14.7.10  
県北会員と小野清子参議員



秋高連 仲よし三人



H14.7.12



H16.7.29  
在京秋高連総会 グランドヒル市ヶ谷  
新旧役員メンバー懇談

# 挨拶・祝辞



挨拶

## 創立 20 周年を迎えて

秋高連会長 澤 木 誠 一

私ども在京秋田県高等学校同窓会連合会（秋高連）はお陰様にて今年創立 20 周年を迎えることができました。

これは、ひとえに皆々様のご指導とご鞭撻によるものであり心から御礼申し上げる次第です。

秋高連は在京の秋田県高等学校同窓会を母体とする連合会です。秋田県内におきましては学問、スポーツ、その他あらゆる面で互いにライバルであり、本来ならば相入れない関係でありながら、一たん故郷を離れて見れば、同じ秋田の出身同志であるというなつかしさ、頼りがいのあるありがたさにいち早く注目して、この高等学校同窓会連合会を誕生させました先達の先見の明には、あらためて敬意を表する次第です。

この秋高連のすばらしさは互いの同窓会を心から信頼しながらも決して混り合うことなく、各学校同窓会を単位として独立していることにあります。

いわゆる派閥というものはなく、宗教や政治に左右されない会であるからこそ今日迄続けられたものと思います。

私はこの秋高連の会長となりましたとき、「和をもって貴としとなす」という聖徳太子のお教えに従っていくことを申し述べました。そして 20 周年を迎えた今日、あらためて会の運営のためには更に「寛容と協調」ということが必要であると考えております。

現在は年一回 300 人規模の全体総会を開いておりますが、そのときは北から南までの秋田県全域にまたがる 40 もの高等学校同窓会の皆様が一堂に参集致します。そしてこの集りで各地の文化と人柄に接することができ、秋田という心の故郷を共有する私共互いの絆が一層強められることとなります。

そして私達のつどいがマスメディアによって秋田に発信されれば秋田の皆様も私共が東京で立派にやっているらしいと安心し、改めてエールを送って下さることになります。

もとよりこの秋高連を支えるのは在京の各高等学校同窓会支部にありますから各支部の発展と充実がそのまま秋高連の発展と充実につながるようになります。

現在はインターネットの時代です。今後の発展のためにも各支部におかれましては夫々ホームページを立ち上げてインターネットを通じての情報配信が可能となるようにして戴きたいと思っております。

この創立 20 周年を契機として現状を噛みしめ、創立の理念を堅持し、将来への決意と覚悟を新たに、秋高連が今後益々発展することを念願する次第ですので、これからは秋高連に対する旧に倍する温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

[戻る](#)



## 祝 辞

# 「至純の郷土」を見守って

秋田県知事 寺田典城

在京秋田県高等学校同窓会連合会の創立 20 周年を心からお祝い申し上げます。また、会員の皆様が、出身高等学校の枠を越えて絆を結び、県内の高校の振興並びに県政の発展に寄与されておられることに、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

日本は今、時代の大きな転換期を迎えており、本県もその渦中にあります。全国で進む平成の大合併の中、美郷町の誕生前に 69 あった本県の市町村は 17 年度当初 42 に、さらに 18 年度末には 25 となる見込みです。

このように市町村合併が進展し、地方分権が本格化するこれからの時代にあっては、行政の運営にも自立が求められています。そして県民もまた、旧来の枠にとらわれず、共に地域づくりに参加することが大切です。

「秀麗無比なる鳥海山よ……山水皆これ詩の国秋田」と県民歌に歌われる豊かな自然を活力の源として、この地に生を享けた者が手を取り合い、県政を取り巻く厳しい環境を乗り越え、元気で住み良い秋田をつくるため、底力を発揮すべきときを迎えています。

次代を担う若者の育成においても、時代の変化に敏感でチャレンジ精神が旺盛な人材を育てることを目標に、各高校が特色ある学校づくりを進めております。

「人材遍く育みなして 燦たる理想に燃え立つ我等 至純の郷土と拓かん秋田」

県民歌の最後をしめくくる一節です。未来を拓く志をもって上京され、離れていればこそいっそう温かなまなざしで、この「至純の郷土」を見守り続け、惜しまぬ声援を送って来られた会員の皆様の姿が、ここに重なってくるようです。

そのような会員の皆様の秋田の発展に向けてのご助言、お力添えのほどを、今後ともよろしくお願いいたします。

終わりとなりますが、10 周年、20 周年と刻んで来られた歴史を誇り高い年輪として、在京秋田県高等学校同窓会連合会の更なる発展と皆様のますますのご活躍を祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。



祝 辞

## 力強く踏み出す一步

秋田県教育長 小野寺 清

このたび、在京秋田県高等学校同窓会連合会が、創立 20 周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げますとともに、歴代の会長をはじめとする関係各位のご尽力に対して、深く敬意を表します。

さて、皆様は会の集いの折々に、各々高校在学の頃の心にもどって、当時の熱気に包まれるような時間を過ごされるのではないのでしょうか。

今もそれぞれの母校の窓には、健やかな笑い声が満ちていますが、右肩上がりに日本が成長していた頃とは異なり、将来の夢を声高らかに語り合うことが難しい時代を迎えております。

そのような中で、今春、昨年度の「横手清陵学院」に続いて、「大館国際情報学院」が開校しました。6年間を通じてグローバル化した社会、高度情報通信社会に対応できる人材を育成する併設型の中高一貫教育校です。また、秋田県教育福祉複合施設「明德館ビル」内に、秋田市内の定時制高校を統合した「秋田明德館高等学校」が開校し、新たな歴史の一步を力強く踏み出しました。

少子化の波の中にあっても決して先細りすることなく、確かな学力や 21 世紀を生き抜く力を身に付けた骨太の人間の育成を旨として、これからの教育改革を進めてまいりたいと思っております。今後とも、皆様の一層のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

20 年という貴会にとっての成人の日をここに寿ぎ、さらに「而立」の年という新たな道標を、健やかな足取りで目ざされることを期待いたします。出身高等学校の枠を超え、得難い誼を深めてこられた皆様のご多幸と、在京秋田県高等学校同窓会連合会の益々のご発展を祈念し、お祝いのあいさつといたします。

[戻る](#)



## 祝 辞

# ふるさと秋田の力強いサポーター

秋田市長 佐竹 敬久

このたび、在京秋田県高等学校同窓会連合会が、創立 20 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

また、20 年という記念すべき節目を迎えられた今日まで、貴会の運営にあたってこられました歴代会長をはじめとする役員並びに会員の皆様のご尽力に深く敬意を表しますとともに、日頃から母校と郷土の発展に多大なるお力添えを賜っておりますことに、衷心より感謝申し上げます。

ふるさとを離れ、日々の生活を送る中であって、同窓会はかけがえのない思い出やそれぞれの現況を語り合うことができる貴重な存在であります。貴会では県内各高校同窓会の連携を図り、情報交換や相互交流を続けてこられました。このことはまさに秋田の絆の強さ、太さの証であると感じており、皆様のこれまでの活動は高く評価されるものであると考えております。

ドイツのある詩人は、「青春とは人生のある時期ではなく、心の持ち方を言うのである」と述べております。

これまで精力的に活動されてきた皆様は、今も変わらず、ふるさと秋田で過ごされた青春時代を心の中に保ち続けているものと、思いをめぐらしております。

さて、我が秋田市は、去る 1 月 11 日、河辺町・雄和町と合併し、「新県都・秋田市」として新たなスタートを切ったところであります。今後は、合併で加わった多様な地域資源を十分に活用したまちづくりを進めるとともに、市民協働と都市内地域分権の考え方を市政運営の柱に据え、市民の力をより発揮できる体制づくりに努めながら、県都としての責任を果たしつつ、さらに前進してまいります。

皆様におかれましては、本市はもちろんのこと、秋田県全体の発展のため、引き続きふるさと秋田の力強いサポーターとして、一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、創立 20 周年を契機とし、貴会の更なるご発展と会員の皆様のますますのご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

# 各校同窓会の現況

# 大館鳳鳴高等学校

## 東京鳳鳴会

顧問 武藤 正

秋高連創立 20 周年おめでとうございます。

私共の母校、大館鳳鳴高校は今年で創立 107 年目を迎えました。卒業生は総勢 24421 名になります。その中、首都圏に居住している方々は 3,000 名余と推察されます。当事務局で把握している人数は 2,400 名程（総会通知、会報の発送数）出欠等の返事は毎回 800 名位からありますが、毎年 6 月の総会・懇親会参加者はここ数年 200 名から 400 名の間です。50 歳半ば迄の参加者が少なく幹事一同頭を痛めている次第です。仕事や育児等に追われ同窓会どころではないと思われそうですが、何か良い思案はないでしょうか。ご教示願えれば幸甚に存じます。総会・懇親会不参加の方々も同期会になりますと、各期 20～40 名と集って大いに盛り上がっているとの事です。時期を待つしかないのかも知れませんね。

東京鳳鳴会は戦中戦後は親睦を図るより、進学、就職の世話等を主にしていた様です。世相、価値観も変わり最近では会員同志の親睦交流を主に“明るく楽しく”をモットーに、明日への活力の場となる様、心掛けております。

先輩より引き続いだ名誉ある会を単に歴史が古く、人数が多い同窓会ではなく、何か社会のお役にたてる様な事が出来ないかと目下模索中です。



[戻る](#)

# 大館桂高等学校 かつら会 東京支部

支部長 鷺見 千代子

## 秋高連創立 20 周年に寄せて

秋高連創立 20 周年おめでとうございます。

秋高連の今日の発展、盛会は、会の創立に関わった先輩皆様のご尽力とご苦勞の上に、又、会を愛する多くの会員の皆様のお力、郷土の皆様方のご支援の賜物と心より敬意を表しますと共に重ねてお祝い申し上げます。

私達の母校は県北大館に大正 2 年 4 月大館町立実科高等女学校として創立し、第 2 次大戦後の昭和 23 年 4 月秋田県立大館桂高等学校と校名を改めまして今日に至っております。この間、大正、昭和、平成と時代の要請にこたえながら女子高等教育の場として発展を遂げてまいりました。

戦後の経済発展は、進学、就職、結婚等で地方から首都圏に生活の場を移す人々が増加し、急激な生活環境の変化から生まれる孤独感などから、本人の心身や社会に与える影響が問題にされるようになりました。在京の同窓生達もこうした社会の変化を憂慮し、首都圏で生活する在京の卒業生達が東京支部を結成し平成 18 年には創立 50 周年を迎える運びとなり今日に至っております。

毎年開かれる支部総会には、母校の現況報告、90 歳代のお元気な大先輩の皆様、ういういしい新会員まで様々な年代の同窓生が集って「お久しぶり・お元気だった」と再会を喜び合い、旧交を温め和やかに交流親睦を深めております。

急速に変化していくこれからの社会環境、地域で、ともすれば人間性が見失われる危険が益々高まる中で、秋高連総会は「秋田県出身者」というアイデンティティーを共有する人々が「お国なまりで語り合える場」として大変に貴重なことと存じます。

秋高連全体総会の継続を願い、益々の発展向上をご期待申し上げます。



[戻る](#)

# 花輪高等学校

## 東京支部 花栄会

会長 佐藤久志

我が母校、県立花輪高等学校は、鹿角市の中心地花輪の高台にあり十和田、八幡平を望み、青垣山を廻らせる鹿角盆地が展望できる自然環境にめぐまれた所に位置しております。

今年創立 80 周年を迎える母校は、大正 15 年 3 月花輪町立、花輪実科高等女学校としてスタートし昭和 3 年秋田県立花輪高等女学校、更に昭和 23 年に男女共学の秋田県立花輪高等学校となり今日を迎えております。誠実・明朗・英気を校訓に、女学校時代は、つつましやかさ、花の如く美しき心を motto に女性らしさを大切に表現し、男女共学になってからは男子は質実剛健、雄々らしさを校風とし、受け継がれております。又、旧校舎、校門前には、まったくめずらしい、しだれ桂（突然変異で枝がしだれた桂の木）があり、学校創設当時、背丈ほどの小さな桂が今日では、巨木となり我が母校の歴史と伝統の深さを今に伝えております。

女学校時代はバスケットで名声をかせ、近年でも吹奏楽・演劇・美術・スキー・陸上競技部の活躍はめざましく、マラソン競技界での浅利純子（ベルリン世界陸上優勝）、高橋健一（東京国際マラソン優勝）、現役では松宮兄弟選手の実業団駅伝優勝での活躍等、時おり見られる母校関係の報道、スペースを大きくとったこれ等の記事に、うれしくて胸にジーンとくるものを感じます。

花栄会（花輪高等学校同窓会東京支部）は関東地区在住の方を対象とし、それぞれがふるさとを離れていても、同窓という絆を大切に相互親睦を深め更なる母校の発展を願い、これ等に少しでも寄与できればと思っております。また花栄会が、秋高連の一員としてその活動に加えていただいております事を心から感謝申し上げます。



[戻る](#)

# 小坂高等学校 東京支部

事務局長 築 瀬 久

当支部も結成以来23年になります、その間役員3役は2代で運営されてきましたがこの4月の幹事会でようやく次世代へ引き継ぐことになりました。

昭和57年設立第1回の総会には出席者200名を超える程の大盛況でしたが、近年は100名の出席確保が難しくなり、従いまして運営費の確保も同様の状況です。

当会の運営のため途中から年会費の拠出をお願いし年1000円を、総会を実施する年に2年分2000円の振り込みをお願いして運営してきましたが、前述のごとく総会出席者の減少とともに資金の確保も減少の一途で幹事一同頭を抱えています。

そこで幹事不在年を解消する取り組みを現幹事で実行することを申し合わせて、この一年で、ある程度の成果を見るよう現在実施しているところです。

なお町の希望で12年前からふるさと会が誕生し、そちらの方へ人のながれが移っていく傾向とやはり年会費制を実施したこともあり前記のことかなり困難が予想されます。

また来年は本校創立90周年を迎えることや県の学校統廃合の絡みもあり本部の活動も活発化してきており、当支部としても今までになかった活動を展開されるものと予想しております。

本年6月からは下記の体制で運営されます。よろしくご指導ご鞭撻の程お願いいたします。

|       |              |              |
|-------|--------------|--------------|
| 支部長   | 橋本 攻 (39年卒)  |              |
| 副支部長  | 伊藤 精 (41年卒)  | 鈴木えつ子 (38年卒) |
| 事務局長  | 山崎 新生 (42年卒) |              |
| 事務局次長 | 山本 セツ (38年卒) | 佐々木 哲 (54年卒) |



[戻る](#)

# 鷹巣農林高等学校 同窓会 東京伊勢堂会

会長 布田 祐五郎

我が校は、明治42年3月北秋田郡立農林学校として、鷹巣町七日市（旧七日市村）に開設され、時代の要請により大正元年に秋田県議会において郡立から県立へ移管、鷹巣町へ移転が決議されました。その後生徒数の増加や学科目の増加により、昭和23年学制改革の変遷等を経て今日に至っております。

創立以来95周年を迎え、記念事業「屋久島世界自然遺産」の探訪研修を実施するなど、大きな節目100周年に向けて歩み続けております。特に本年は新年早々スキー部が全県総体三連覇、リレー四連覇という大変明るいニュースがありました。

時代の流れの中で、学校の統合問題という大きな動きがありましたが、既に具体化しつつあり、平成22年に現在の本校敷地内に新設される運びとなっており、従って平成21年には現在の「鷹巣農林高校」として100周年記念事業を行う予定のようであります。

関東地区を中心とする本同窓会「東京伊勢堂会」は、今から30数年前に前身として会社パネ協において誕生発足し、関東地区在住の同窓生へ次第に輪を広げ、現在は約1,500名の会員を擁しております。

何と云っても、会員の親睦交流を図る意味で年1回の総会は最大の行事であり、近時出席者も100名を超える盛況ぶりです。今年で30周年を迎えることになりました。

活動としては、総会の他に役員を中心に母校への行事に出席したり、上部組織秋高連へ役員を派遣したり、他校同窓会へも積極的に参加し親睦交流を深めつつあります。

母校の発展とともに、統合後の同窓会の関連等いろいろの諸問題がスムーズに解決してゆくことを願い、やっと成人を迎えた秋高連の益々のご発展を期待しております。



[戻る](#)

# 米内沢高等学校 関東支部 爽風会

会長 武石 鉄 昭

## 爽風会の現況について

平成 17 年 10 月、米内沢高等学校は、創立 60 周年を迎えんとしている。

創立以来、米内沢高等学校の同窓生は、勤勉、実直をモットーに、全国各地に輩出され、そこで孤軍奮闘、それぞれの分野で一生懸命頑張り、米内沢高等学校出身者の気概を示してきた。

関東一円の同窓生達は「会員相互の親睦、産業、文化、スポーツ等を通して会員の知識の高揚を計りつつ、母校との緊密な連繋をとり、母校の発展に貢献することを目的とする。」の趣旨のもと、昭和 46 年 11 月 21 日、渋谷の地で約 150 名の同窓生を集め関東支部「爽風会」の結成式を行った。

これを機に「爽風会」という名に相応しい 6 月頃、高等学校長、恩師、同窓会長を招聘し、総会を開催してきた。

昨年度の総会は 6 月 26 日（土）品川プリンスホテル新館で 12 時より開催、出席者は 80 名弱であったが、千葉県、群馬県、名古屋等からの参加者も。また、学校長、恩師、同窓会長からは、爽風会の絆と存続の大切さを示唆された。

懇親会では、歌あり、踊りあり、又、出身地ごとの名札をつけることにより更に親交を深め、会を成功裏の内に終えた。

総会を成功させる為に常に 20 名弱の幹事会を開催、幹事には同期生に声をかけてもらい、又、総会に向けての会報の発行、大手各紙等の新聞社に総会のお知らせを載せる等、知恵を絞り爽風会のあり方を模索している。

今般、縦社会の喪失が叫ばれる中、今こそ同じ学び舎で学んだ同窓生が喜びも悲しみも踏み越えて自分の現状を克服し、明日への希望を見出せる機会をつくれるのであれば爽風会の存在の意義があるのではなかろうか。



[戻る](#)

# 能代西高等学校

## 関東同窓会 東雲会

幹事長 友成 穂 秀

### 母校・能代西高等学校の姿

県内の西北に位置する能代市郊外のブナ原生林・白神山地を背後に花咲き、鳥謳う東雲平野に母校の秋田県立能代西高等学校が聳え立っている。

母校の創立は昭和 20 年、能代女子実業学校（農業科・商業科）認可。昭和 23 年、秋田県立能代農業高等学校と改称。昭和 40 年 旧文部省より自営者養成農業高校に指定。平成 6 年、秋田県立能代西高等学校（普通科・農業科学科・産業技術科の 3 学科）の現校名に改称。平成 10 年、学科再編により普通科、専門学科と並ぶ第三の学科として先進的な総合学科が設置されて今日に至っている。在学中、学生寮があり在寮生が舎監の指導のもとに、農作物、家畜、草花等の成育を熱心に観察・記録していた姿が昨日のここのように想起される（自営農業者養成力の原点）。

卒業生の多くは能代・山本地区の地元で就農し、リーダーとして活躍しているが、近年首都圏への進学・就職者が徐々に増えつつある。

平成 17 年度は母校の創立 60 周年に当たり、10 月に記念式典が予定されている。卒業生は約 8000 名に達する。

校訓は一貫して「勤労至誠」。校舎と農業実習環境は全国でも有数の広さと充実した教育条件に恵まれ、「総合学科」を擁しているのが自慢・特徴である。

東雲会・能代西高関東同窓会（会長 平川直治）の会員数は約 700 名、今（平成 17）年度、第 27 回目を迎えた。例年 5 月下旬に母校の諸先生と本部同窓会、在京能代五高会、大館鳳鳴、鷹巣農林高校東京同窓会等の方々を御来賓としてお招きして総会・懇親・激励会を開催している。

首都圏に就職、進学された新卒者を主人公に大激励会を即興で行い、門出を祝う慣例が定着してきたのがユニークである。

県内市町村の平成の大合併に次いで、少子高齢化の波は高校再編をも予見させる。今年度は在京秋田県高等学校同窓会連合会にとっては創立 20 周年に当たり、これからも、いち会員として内外の環境激変に順応し、微力を尽くし、共に歩ませて頂きたいと熱望して止みません。



[戻る](#)

# 能代工業高等学校 東京地区支部 東籟会

会長 藤本 勝久

秋高連創立20周年おめでとうございます。

昭和28年に有志が集まり同窓会が結成され、途中中断もありましたが当初の役員達の努力により、平成14年に結成50周年記念総会を盛大に開催し、現在に至っております。連絡の取れる会員数は現在2,500人程です。

活動内容は、年1回の総会（9月開催）と、能代地区等の高校東京同窓会総会と交流参加をしております。また、我が高校のバスケット部が年末に行われるウインターカップに参加するとき、同窓会をあげて応援をしております。

総会には、学校長や教師、同窓会長、昔の恩師等を招待し、懇親会には能代市長はじめ能代地区等高校東京同窓会の方々にも臨席して頂き、100名程の参加があります。年々同窓会への参加意識が変化してきているのか、減少傾向にありますので、若い会員が参加しやすい会にしようと役員で色々検討し、毎年趣向を考えて行っております。

秋高連の皆様には今後とも色々お世話になりますのでよろしくお願いいたします。



[戻る](#)

# 能代北高等学校

## 松蔭会 東京支部

支部長 石 渡 澄 子

### 創立 90 周年と東京支部のあゆみ

能代北高は大正 3 年に開校し、平成 16 年に創立 90 周年を迎えました。大正、昭和、平成と校名も制度も時代に添って変遷を続けましたが、女子校として歩んできました。

東京支部が発足したのは昭和 28 年、ふるさと秋田は夜行列車に揺られて遠い存在でした。以来 50 年間先輩から後輩へと引き継がれながら現在に至っています。

母校の創立記念に合せて、東京支部では毎年発行する同窓生親睦のための「松蔭会だより」を記念特集号として「私達の学生時代」をテーマにしました。大正時代の女学生から、戦後の物資の貧しい時代、先生の手書きの教材には、個性豊かな熱気が伝わりました。交通の不便な生徒のための昭和寮の日々のことなど、年齢層の広さが大きな時代背景を感じさせるものがありました。

例年 5 月には、新同窓生を励ます会を学校主催で開催します。これも東京支部が、慣れない土地に就職、進学のため上京している後輩を、手作りのふるさとの味で「はげまし会」を始めたのが端を発し、その後人数が増加して、学校主催となりました。秋には懇親会を開催します。かつては能代五高校の交流の場でもありましたが、他校との交流の機会が多くなり、現在は女性だけのなごやかな雰囲気を楽しんでいます。

毎年の在京秋高連では「我が母校」を代表するように、PR パフォーマンスは楽しみですが、昨年は能代北高東京支部のシンボルとして、手作りの校旗が初披露されました。寄贈して下さった M さんが何か月にもわたり、デザインや手法を考えて制作されたものです。11 月の同窓会でも披露されて、女性らしさの中にも凛とした校旗に感慨深いものがありました。

少子化の進む現在、いつまで女子高として存続出来るのかわかりませんが、「今出来ること」それを大切に友情の輪をひろげてゆこうと思います。

手  
作  
り  
の  
校  
旗



[戻る](#)

# 能代高等学校 東京同窓会

会長 島 豊彦

母校校歌に「そのかみはるか城（くに）ひろく 尽きせぬ流れ米代の」とあるごとく、能代高校は県北から日本海に注ぐ米代川のほとり・能代市にある（現在は東能代駅に近い高埜が所在地）。開校は大正14年だが翌15年9月の校舎落成式典の挙行日をもって開校記念日と定められた。本年9月は80周年に当たり、記念式典が催される。同窓会は、昭和5年3月に発足しているが、現在までの卒業生は約19,000名である。

東京同窓会は、昭和30年代から同窓会東京支部として発足していたが、昭和56年10月の総会において東京同窓会と名称を改め独立した形となって今日に至っている。本年度で24年目だから他校の在京同窓会に比べると若い方であろう。

この間、会長は私が3代目であるが、2代目の小林肇会長を補佐した八柳昭義さんは6期12年の長きにわたり事務局長を務められた（現顧問）。八柳さんは、会長並びに幹事を増やすことに誠心誠意努力され、また、秋高連加盟校としての活動にも尽力されたから、能代高校に八柳ありの名は秋高連会員の記憶に留められていることであろう。

現在、東京同窓会は住所が判明している会員が約1,400名であり、会員の増加を図ることが究極の課題である。毎年9月に会報を発行して全会員に郵送し、10月上旬に総会を行っている。総会前に同窓生の中から委嘱した講師を迎えて「講演会」を催し、総会終了後は出席者の親睦をはかる懇親会を催している。懇親会の企画進行は10期違う毎の当番幹事（計3期）による輪番制としているが、元気の良い若手幹事がリーダーシップを取る形が自然にかたまりつつある。また、日常的情報交換としてホームページを平成12年5月に立ち上げ、東京周辺のみならず能代方面からも寄稿がよせられてくる。本年度は、東京同窓会に青年婦人部が新設され、女性会員を含む若手会員の今後の活動振りが期待される。

かつては体操競技や硬式野球、軟式野球、バレーボール等で全国レベルを誇っていた我が校のスポーツは近年低調であるが、「松陵健児」が約半数になった女性とともに文武両道の伝統のもとに勤しむ息吹が能代の名勝・風の松原の松籟とともに聞こえてくる気がする。やがては、卒業生の一部が首都圏に定着し東京同窓会に加わることを期し東京同窓会は止むことなく真摯に歩み続ける。



[戻る](#)

# 能代商業高等学校 東京支部

会長 片谷 勉

能代商業が創立 83 年を迎えることが出来ました。本校は大正 9 年夜間部として出発した能代商工補習学校を前身とし昼間通年校として湊城尋商業高等小学校に併設発足した大正 11 年 4 月を創立の起点としております。以来 83 年の歴史になります。

昭和 27 年によく能代市立商業高等学校と改称され、生徒数も徐々に増えて来ました。またこの 10 年間は男子ソフトテニス部の全県初征覇を初め空手道部、バドミントン部など運動部の活躍に加え、コンピュータ部や、簿記同好会など文化部からも、全国大会への出場が見られるような躍進著しいものがあります。

平成 11 年から教職員の英知を集め 21 世紀にふさわしい個性あふれるスペシャリストを育成するため学校改革に取り組んでいます。新しい商業教育や魅力ある商業教育のあり方をテーマに現実の商業への対応を切り込むべく教職員の研究活動が盛んになって来ております。

能商を活性化しようとし、そのためにはとにかく動き出そうとみんな一生懸命がんばっております。能商をこよなく愛する在学生、卒業生は校訓「誠実・剛毅」を忘れずに益々の発展を願っております。



[戻る](#)

# 五城目高等学校 東京森山会

会長 武 埴 利 男

秋高連創立 20 周年を先ずもって、お慶びを申し上げます。

我が母校は、昭和 23 年の学制改革で、前身の女学校から男女共学の五城目高等学校としてスタート(逐年、林業科、家庭科を設置)現在は湖東部唯一の普通科高校。(山本郡南部舎)

同窓生の大多数は、県内在住者であるが関東地区には、約 1 割強の会員が居住していると推測され平成 7 年同窓会本部の肝いりもあり関東支部(東京森山会)の結成をみた。

秋田を離れて、30 年、40 年、50 年余。杞憂諸々、過ぎし日を振り返る時間が生活の中でできたとき、ふと思ひ浮かぶのが高校時代。純粹というか無邪気というか自我に目覚めた生意気な青年前期の大人ぶった行動が懐かしく感じる。

旗揚げから 10 年、親睦を図ることを目標にして、幹事会で種々検討しているが会員への浸透が今一で名案が浮かばず、年に 1 回の大行事、それは総会開催の一言に尽きる。

特別事情の無い限り毎年 6 月第 4 土曜日を定例化し、会員相互の念頭に定着するよう実施している。

昨年より年会費納入制を採り入れ、郵便振り込み制度を活用した結果、会の運営上最低限の経費確保ができた。今後も総会案内状と同封発送を継続していき、会費のみ参加者が顔の見える総会参加者に増加してくることを願っている。

「森山の 山懐に抱かれて 清き川瀬のめぐる里……………」校歌の一部

「山川は常にもだせど ふるさとは 絶えぬいのちを 育みにけり」反歌です。

自画自賛になるが素晴らしい校歌です。東京の空の下で未永く歌い継がれることを願い秋高連創立 20 周年記念誌の五城目高等学校紹介と森山会の現況報告とする。



[戻る](#)

# 男鹿海洋高等学校 関東エリア会

船木 俱子

海洋技術高等学校は昭和 21 年創立、男鹿高等学校は昭和 33 年の設立であったが、平成 16 年 4 月、統合により普通科と水産科（専門学科）を併設する総合制高校「秋田県立男鹿海洋高等学校」として新生した。旧海洋技術高等学校の校舎（男鹿市船川港南平沢）に於いて、平成 16 年 5 月 18 日にその開校式が挙行された。

と同時に、両校それぞれに活動をしてきた同窓会にもまた終止符がうたれ、4 月からは男鹿海洋高等学校同窓会として生まれかわった。男鹿高等学校の学び舎に訣れを告げる際には、開校以来教鞭をとられた先生方や県内外在住の同窓生に呼びかけて「思い出を語る会」が催された。今は新たな名称のもと、二つの学校の橋渡しをしていくのが同窓生としての課題であり、それぞれの歴史を踏まえた、より確かな同窓会として出発すべく試行錯誤のときでもある。

普通科と水産科を有する個性的な学校はまた、日本海に突きだした半島という地形ゆえの、生物学的にも地層学的にも貴重な、あるいはその半島全体が国定公園であるという風光明媚に建てられて在る。多感な高校生活をそこで過ごすという幸せを、恵まれた環境が人を育む——奥深い最も大事なものを——ということ、同窓の先に生きたものとして在校生に伝えたい。



母校校舎全景



[戻る](#)

# 金足農業高等学校 東京同窓会

会長 佐藤 規

秋高連創立 20 周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

この長い間には多くの時代の波を受けてきたが、最近は特に著しいものを感じる。金足農業は学校創立の『農業自営者育成』の精神から、県内では男子校の印象が強かったがそれも時代の移り代わりと共に大きく変化し、現在では女子生徒が半数を占めている。

また、農業高校でありながら、今では『農業』と名のつく学科から『生物資源』『環境土木』『食品科学』『造園緑地』『流通情報』『生活科学』の 6 学科になり、現代的なイメージに変わった。それに伴い、巷では学校名の変更が囁かれている。

スポーツの分野では母校出身であるボクシングの『榎』氏、大相撲の『豪風』関等が現在活躍し大変喜ばしいことである。

一方苦労話ではあるが、母校伝統の相撲部はここ数年、部員不足で団体戦を戦う人数確保に四苦八苦の状態である。

また、野球、駅伝については、再び県内大会での好成績を期待したいものだ。私たち同窓会の支部は故郷秋田県内には数多く設けられているが、県外では東京支部のみとなっている。

現在、東京支部の活動は隔年毎に総会を開いているが残念なことに、若い人や、女性会員の出席率が低く、役員一同頭を悩ませている。これからの総会がより幅広い老若男女の情報交換の場となるよう努力したい。

役員会は毎年 2・3 回開催し、時折一泊旅行のゴルフコンペを兼ね、お互いに親睦を深めている。

また、昨年から年 1 回の新聞『在京金農だより』を発行し、情報の提供と会員相互のコミュニケーションを図っている。

最後に秋高連の更なるご発展を祈念し、今後も他校同窓会のご協力を得ながら微力ではあるが、当支部の活動の場を広めたいと考えている。



[戻る](#)

# 秋田商業高等学校 東京雄水会

幹事長 伊藤 晶

※ ジャンプ up!! 東京雄水会のスローガンを掲げ、近年は毎年6月の第2土曜日正午開会を定例として総会を開催しています。

総会の参加人数160名、年会費納入者600名を目標に日々の活動を展開していますが、若干の未達があること、また、年々改善はされているものの、若年者の参加が少ない点が課題となっています。

総会には、秋田から恩師を招待するとともに、毎年行っている講演会は好評です。

※ 会報は、総会議案のほか母校の活躍状況、サークル活動参加者の感想文をはじめとする寄稿などを48頁に編集し、総会日に発行し総会欠席者全員に送付しています。

※ 役員は、会長1名・副会長6名・幹事長1名・常任幹事長11名・監査2名・幹事（昭和30年以降の卒業期は各期毎に複数）110名で構成し、他に顧問14名を任命しています。

※ サークル活動は、4部に交付金を支給しており、それぞれ自主的に活動しています。

◎東雄句会（俳句）は、毎月投句・通信選句を行い、春秋2回の吟行句会・会報に全会員の五句抄を掲載しています。

◎雄球会（ゴルフ）は、春秋2回のコンペが33回に達し、毎回25名程参加しております。

◎東雄文化部（観劇・演奏鑑賞）は、秋田商業に縁の深い女優やアーティストの支援も兼ねて、生の芝居や演奏等を堪能しています。

◎東雄ハイキングクラブは、年2回家族を含めて、回を重ねる毎に参加者が増え和気あいあいを楽しんでいます。

※ 同窓会本部（秋商雄水会）の総会・支部長懇談会にそれぞれ2名を出席させ、1名当たり20,000円の旅費を負担しています。

※ 全国高校サッカー選手権大会に母校が出場する際は、独自に募金活動を行い、サッカー部に寄付するとともに、応援費を確保して会員に入場券を配付し、試合日には多くの会員が応援に繰り出し、正月の定例行事のようになっていきます。

当会は、横断幕や応援用の旗を備えて盛り上げています。



[戻る](#)

# 秋田経法大附属高等学校 関東支部

代表 近藤 正 司

秋高連結成 20 周年を心からお慶び申し上げます。

本同窓会関東支部も昨年 7 月 3 日に東京・アルカディア市ヶ谷にて多数の来賓並びに会員が結集いたしまして盛大に第 24 回目の総会、懇親会を行うことが出来ました。

特に最近の懇親会の雰囲気華やかな演出よりも会員の仲間の中から人生豊かな方を選んでその方の生き方、成功、失敗談などを語っていただくような形式をとって行った結果皆様から非常に好評の声が聞こえてきました。

同時に総会、懇親会を開催するために準備委員会を各期から選出させ、計画から実施するまで担当して頂き数回の検討会を行い、参加する会員のみなさんが心から総会、懇親会に参加できるような雰囲気づくりを真剣に検討し、みなさんが参加して本当に楽しい懇親会ができるような企画を立案することがこの懇親会に出席したみなさんからよい評価が得られるものと思います。更にはみなさんのご意見を聴きながら反省会を開き来年に向けて盛り上げたいという意気込みをもって取り組んでいます。

今後も常に関東支部会の結成時のような初心にもどって「闘志と情熱」を胸に刻み、いつまでも支部会のあかりを灯すために会員および関係各位のご理解とご支援をいただき同時に役員も頑張っていきたいと考えています。

なお、本校本部同窓会がスタート（1956 年）して本年で丁度創立 50 周年を迎えます。この間に卒業された同窓生は 32,000 人有余となり、それぞれ県内外で活躍しています。「野球は甲子園、進学は東大」目指して「闘志と情熱」の精神で「経法大附」の存在ここにありを全国に示し続けるために在校生、同窓生、職員、父兄一丸になって邁進しています。

どうか今後とも皆様方のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



[戻る](#)

# 秋田高等学校 東京同窓会

幹事 佐々木菜穂子

本会は、東京とその近郊在住の同窓生を会員として、高橋恒雄会長（昭和27年卒）と10数名の幹事が中心となって、独自の活動を展開しています。

定期総会・賀詞交歓会のほか、大学在学中の後輩のための就職懇談会、会員同志の親睦を深めるゴルフコンペ、きりたんぼ会などの行事や催しを通じて、同窓会での交流に新たな価値観を見出そうとする若い世代の参加も徐々に増えつつあり、縦軸の世代交流と横軸の同期連携とが有効に作用しつづけます。それは、若い世代や学生を中心に会のホームページが活用されている事にも如実に現れています。

ここ一年の本会の主な活動をご紹介します。

平成16年5月21日には「定期総会」が開催されました。定例の議事審議と承認、母校の現況報告の後、「サマワで今何が起きているか」という演題で石坂仁氏（共同通信社社会部記者・昭58年卒）の講演があり、イラクでの取材体験を生々しく語って頂きました。出席会員は百余名。

平成16年10月9日には折からの台風接近の中で「就職懇談会」を開催。冬の時代と言われて久しい昨今で、先輩として何かお手伝いが出来ないかという思いで始めた会もこれが四回目となり、故郷の秋田魁新報にも掲載される行事となりました。この会のために九州から駆けつけた大宮淳氏（パナソニック・コミュニケーションズ（株）人事部・昭49年卒）の基礎講演と各々の希望職種の諸先輩のアドバイスに熱心な質問が続きました。その後は本場比内町から取り寄せた「きりたんぼ鍋」を囲みながらの懇親となりました。

平成17年1月26日には「新年賀詞交歓会」が開かれました。講演は「私の野球人生」というテーマで元プロ野球選手の石井浩郎氏（昭58年卒）が、激動の野球界や人生の転機などを、懐かしい母校の先生や超有名監督の言動などを面白く交えながら語ってくれました。今後も各界で活躍中の母校の卒業生や、さらに県出身の各界の方々のスピーチを企画し、交流を深めたいと思っています。是非よろしくお願い致します。



[戻る](#)

# 秋田北高等学校 あげまき会 東京支部

支部長 刈田 カイ

あげまき会東京支部は昨年、設立 90 周年を迎えました。関東および東海地区在住の同窓生の親睦の場として現在、会員 850 名を擁しています。

毎年、支部の総会には母校の校長先生とあげまき会本部の会長をお迎えし、会員約 150 名が集います。矍鑠たる大先輩の方々も参加し、親睦を深めています。誠に女子校らしい華やぎに溢れた、和気藹々の楽しい会です。

昨年は、母校の新しい校訓「自求真善美」の制定とその背景について、松田至弘元校長先生の記念講演がありました。あげまき会の湊則子会長からは本部の活動などを伺いました。佐藤勇一校長先生からは、在校生たちが平成 13 年の母校創立百周年を機に、文武両道に大いに実力を発揮しているというお話があり、会場は歓びに包まれました。

総会では例年、喜寿の方々に記念品と紅白のお菓子を贈呈し、お祝いをしています。また、卒業生による講演もたいへん好評を得ています。今年は、裁判所の判事をされている井野場明子さんの「裁判員制度について」の講演を予定しています。同窓会において、この新しい法律について学べることを嬉しく思います。

私たちは母校の長い歴史と伝統を誇りに、脈々と受け継がれた校風を慕いつつ、今日に至っていますが、その母校も平成 21 年には女子校百年の歴史に幕を閉じ、男女共学を開始することになりました。時代の要請に応え、次の 100 年の道程を新しい理念の下に歩み出す母校のますますの発展を心から願ひ、これからも限らない声援を送り続けてまいります。



[戻る](#)

# 秋田南高等学校 東京支部

副支部長 榎 利 美

秋高連創立 20 周年を迎えた事、心からお慶び申し上げます。

本校は昭和 37 年に創立され、同窓会としては今年（平成 17 年）で 40 周年という節目を迎えています。その間の卒業生数は約 17,200 人に達し、現在県内外 15 の支部において母校の発展と同窓生相互の親睦啓発に努めています。

昭和 55 年に発足した東京支部は会員数が約 1,700 名に達しており、総会と各期クラス会を隔年ごとに実施しています。

総会では秋田から校長、同窓会会長を始めとする主要メンバーに上京してもらっており、昨年の第 13 回総会では校長が教職員一丸となって校訓たる「独立自尊」の具現に務め、進学校として目指している目標に向け努力している事とその成果と評価を述べられ、その後、本校 5 期卒業の教頭がビデオで平成 9 年に完成した新校舎、授業風景、文化部、運動部、生徒の日常の学習風景をつぶさに紹介してくれました。本校卒業者が校長に就任する時代が近づいている事を予感しつつ、卒業時期の近い者は再会を喜び合い、また期の離れた者は同窓と言う絆でおおいに懇親の実を挙げました。

支部としての苦勞は、会員掌握の困難さ、年代格差によるパーセプションギャップ、各種事業に対する予算確保の困難さに尽きます。これらの難しさは他校支部にあっても同様と思いますが、当校東京支部は発足当時からの理念である「母校を同じくする年代を超えた卒業生の出会い・再会の場、異業種交流の場、心のオアシスとなる場を提供する。」という事を具現出来るよう本部との連携を密にし、魅力ある計画を企画立案し運営してゆきたいと思っています。

創立 20 周年を迎える秋高連の更なる発展のために、メンバーとして努力を惜しまない所存です。



[戻る](#)

# 秋田中央高等学校 東京一交会

会長 保坂 悟

秋高連 20 周年おめでとうございます。

本校は、大正 9 年（1920）創立の土崎実科高等女学校が前身ですが、数々の社会変動の中で、学制改革、統合にともなう秋田市立高校（昭和 23 年）の発足、そして県立移管（昭和 57 年）校名変更等、幾多の試練を克服し、今日の充実発展を見るに至りました。秋田中央高校としても、すでに 23 年の歩みを刻み、確固とした歴史を、築きつつあります。5 年前に創立 80 周年記念式典を盛大に行いました。

さて、東京同窓会（東京一交会）ですが 2 年前に 20 周年記念総会を行い、秋高連からも、数名のご出席を頂きました。毎年 11 月に総会を行い会の目的である会員相互の連絡と親睦を中心に、楽しく行っています。

今年は、11 月 5 日新宿「京王プラザホテル」で開催を予定しています。秋高連に対しても出来る限りの協力を惜しまないつもりです。又、他校とも交流を通して、今後の同窓会活動に生かしたいと思っています。

今後共変わらぬ御指導の程、よろしくお願い致します。



[戻る](#)

# 秋田工業高等学校 東京秋工会

顧問 笹 渕 茂

昨年本校は100周年記念の年だった。

それを祝福するため「東京秋工会」からは、約20名の参加者があった。その中には同窓会の功労者としての被表彰に該当する数名も。澤木誠一現連合会会長、遠藤幸雄氏、河正雄氏などなど。

このあと、西澤潤一先生（平成17年4月から首都大学初代学長にご就任の予定）のご講話で会場を盛り上げた。

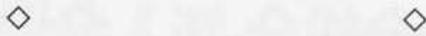
会場を秋田県民会館から、第二会場の秋田キャッスルホテルに移し祝賀会を挙げる。

その中での圧巻は「東京秋工会」からの特別出演の合吟。創立100周年記念に寄せた“新作の詩吟”を披露したのだった。合吟に臨んだ出演者は総勢十数名。詩吟の創作者や尺八奏者も、これに加わり豪華そのもの。



「東京秋工会」の総会は、例年“東京プリンスホテル”だが、昨年からは「幕張プリンスホテル」に替えた。例年と異なる会場、その会場を間違えないようにとの役員諸君の心配りがよかった。参加会員からは喜びの声が聞かれた。

初めての試みとして、今回は「ギター・ソプラノデュオによる秋の夕べ」と題して会員の勧誘を行った。中谷麻利江さんは数少ないコロラトゥーラソプラノ、それに岩見谷洋志氏（昭和41年電気科卒）のギター演奏だった。共にプロの音楽家。演奏が終えた時点で、もちろんブラボー、アンコールのあらし。すばらしかった。



この機会に母校の科の成り立ち、沿革などの概要をご披露したい。

国語、数学、英語などの一般教養は普通高校と変わらないが、科ごとに専門教科のあるのが実業高校らしさ。これが一般高校とは、だいぶ趣を異にするところ。科ごとに分類されていてその内訳は次の通り。機械科、電気科、情報技術科、土木科、建築科、採鉱科、冶金科、工業化学科、産業科。これがおおどころの分類。

このうち、工業化学科などは戦後にできた科で、このころから女生徒を入学させるようになった。この間に時代の要請もあり、そのニーズにこたえるべく採鉱科、冶金科などは初期の呼称とだいぶ変わったものもある。新制中学、定時制高校の併設などもあった。



[戻る](#)

# 角館高等学校 東京若杉会

副会長 中山 文 夫

“朔雪凌ぐ若杉の 校旗をともに護りつつ 新日本の御代を負う 男児の意気はここに在り……”

これは、島木赤彦作詞、斉藤茂吉補詞、小松耕輔作曲になる我が母校の校歌の一節である。歌詞は四番までであるのだが、校名も角館という地名も出てこない全国でも珍しい校歌である。またその荘厳で格調高い詩と曲想とに、在校生、卒業生がひとしく誇りを持ちこよなく愛し続けている。

首都圏に住む同窓生が一同に会し、往時を偲んで蛮声を張りあげ、この校歌や応援歌等を歌う機会として楽しみにしているのが東京若杉会である。本会は、昭和35年に有志で立ち上げて以来、本部若杉会の東京支部として、年次総会兼新入会員歓迎懇親会を毎年開催して今日に至っている。

たぶんどこの同窓会もそうである様に、会員の確保と健全な財政の確立が、本会にとってもやはり長年の課題であった。しかし、経理の面では、数年前から年会費制を導入し、多くの会員の協力により、繰越金が出る様になるなど余裕を持って会の運営が出来るようになり、これを克服しつつある。

また、会員数の拡大については、比較的若年の層からも役員を登用したり、総会時に第一線で活躍している同窓の士のスピーチを盛り込んだりして鋭意努力している。さらに、会への関心を高め、魅力的な同窓会になることを目指し、広報活動にも力を注ごうと意図しているところである。

当面する課題として、今年10月に行われる母校の創立80周年記念イベントへの協力と角館南高校との統廃合問題への取り組みがある。母校や同窓会本部との連携を密にして、これを強力に推進していきたいと考えている。



[戻る](#)

# 角館南高等学校 駒草同窓会 東京支部

支部長 能見京子

秋高連創立 20 周年誠にありがとうございます。

我が母校は昭和 3 年に「秋田県立角館高等女学校」として開校し、合併や統合を経て昭和 27 年に今の高校名で女子高として現在に至っております。

しかし、母校では近年の急速な少子化に伴い、また他の高校との統合による共学化という計画も持ち上がっております。長い歴史の中で母校の根底にある駒草精神を受け継ぎ、21 世紀に向けて新しい時代にふさわしい人間形成の場として力強く歩みつづけて欲しいものと考えております。

私共も先輩から引継いだ駒草同窓会東京支部では今年 48 回目の会員相互の懇親と新入会員の歓迎会を開催いたします。毎年母校からも学校長はじめ、同窓会本部会長そして町当局の方々をお招きしております。首都圏に在住する会員の皆様の交流、親睦の場として又母校の近況や故郷の安らぎを提供できる場として東京支部会の一層の充実強化に役員一同努力していきたいと考えております。

母校と秋高連の限りないご発展を心よりお祈り申し上げます。



2004 年の新入会員の歓迎会の風景

[戻る](#)

# 大曲高等学校

## 青麻会 東京支部

事務局長 菅原良孝

秋高連 20 周年おめでとうございます。

愛知万博＝愛・地球博（環境がテーマ）＝が6ヶ月に渡る長丁場で幕開け、メディア情報によれば盛況の兆しの様です。私たち大曲高等学校の同窓会は「青麻会」と云います。大曲の地名の語源である大麻刈に由来すると聞いております。それから、青麻会東京支部の創立は昭和33年に会則が制定されましたので、今年（平成17年）で50周年になります。青麻会東京支部としては、記念誌を作成することに決定し活動をしております。メインは東京支部総会の開催であり、その総会に何人動員できるかが役員と呼ばれる仲間のテーマです。今年（平成17年）の東京支部総会は、7月3日京王プラザホテルにて開催します。青麻会本部長、母校より学校長、青麻会担当教諭、恩師ならびに在京OBをお招きし百余人の参加と、郷土のマスコミ（秋田魁新報社）の取材を得て、親睦の一刻を過ごす予定です。会終了後は、それぞれ同期の桜が集う二次会をしていただければと思っています。総会での課題は、組織の拡大と内容の充実ですが、なかなか思うに行かないのが実情です。事務局としてやれることは協力を惜しまないつもりでおります。

最後になりましたが、秋高連の発展は底辺を支える私達同窓会の充実にあると考え、各校諸兄姉の活動を参考にし、今後の運営に当たりたいと思っております。



[戻る](#)

# 大曲農業高等学校 東京大農会

会 長 藤 井 十 郎

## “至誠” 東京大農会の歩み

母校、大曲農業高等学校は平成14年9月に創立110周年記念式典を終え、現在113年目の足跡を刻んでおります。母校大農は、校訓を「質実剛健」・「実践躬行」・「人格陶冶」・「勤労愛農」として、その校訓を体として農業教育を通して、豊かな人間性を育成することを教育目標に据えております。

「自彊不息」の心意気は大農精神として同窓生は勿論、在校生ともども常に誇りに思い、それぞれが生活の糧として大農生の心の中に生き続けております。

東京大農会は本校農友会の東京支部組織として発足し今年48回の定期総会を重ねております。まさに半世紀に亘り在京会員を中心とした会員相互の交流・親睦の場として活動を続けてきました。これも諸先輩方の努力があつてのことであり、なによりも会員の大農を愛する熱意が支えてきたものと自負しております。

東京大農会は年1回の総会を主要行事とし新年会、そして「東京大農会会報」の発行を通して会員相互の消息を知る機会として提供しています。又総会では母校より校長をはじめ進路指導教諭・農友会会長を招待し、母校や農友会の近況についてのお話しに耳を傾けております。

東京大農会が心のふるさととして会員の胸中にやどり続けることを願い乍ら会務を全うしています。

(会員1380名)



[戻る](#)

# 六郷高等学校 関東支部

支部長 高橋 實

「秋高連」創立 20 周年おめでとうございます。

我が母校も間もなく創立 60 周年を迎えようとしています。関東支部はまだまだヨチヨチ歩きですが、母校の校歌にもあるように「雪に耐え、風にさやげる笹竹の、若き力は我等が力」校訓「笹竹の精神」を課題として活躍しています。

昨年 11 月町村合併により「六郷」は新しく美郷町（六郷町・千畑町・仙南村の 3 町村合併）に生まれ変わりましたが、六郷高校の名前は残すと聞いております。

年一回の総会にも毎回郷里から本校の校長先生他数名の先生、同窓会本部より会長、在京六郷会会長他来賓として出席していただいています。来年も東京にて第 9 回関東支部総会の開催を予定して居ります。

最近では県立高校初の福祉科も設置され、少子高齢化のニーズに応じた人材を育成し来年 3 月には第一期生が巣立ちます。文教の町六郷に相応しい年一回の集いですので「友と友との和と輪」を広げたいと思います。

この度「秋高連」に参加させて頂く機会を得ましたので、他校同窓会に教えをいただきながら、六郷高校関東支部も前進して行く所存です。

今後も何卒ご指導・ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。



[戻る](#)

# 横手高等学校 東京美入野同窓会

会長 柴田 秀二

東京美入野（みいりの）同窓会は、横手高校同窓会の東京地区の組織名です。

昭和 31 年 5 月 21 日、吾妻橋際のアサヒビヤホールにて呱呱の声をあげ、平成 18 年には設立 50 周年を迎えます。いま、記念式典や記念誌刊行など記念行事のため準備委員会を設け意見を積み上げているところです。

現在登録会員（会員名簿登載者）約 1300 名、会運営の中心になる役員会は 80 名ほどで構成され、年 5 回の役員会、常任委員会、各委員会を軸に運営されています。

活動のメインに総会（春）、「秋の集い」と年 2 回の会合があります。総会ではその年に首都圏に進学、就職した卒業生の新入会員歓迎会を兼ねて行い、母校から校長はじめ先生が出席し、進学やスポーツについての母校の現状を聞きます。秋の集いはふる里から芋の子、茸、とり肉、セリなどの材料をとり寄せ、同窓の手で「芋の子汁」をつくり振る舞います。この「芋の子汁会」は昭和 51 年から連続と続いており、素人ばなれの調理とふるさとの味は好評で総会より出席者が多いほどです。

会には、広報、組織、名簿の常設の委員会があります。広報委員会は主として年 2 回発行の会報の編集・発行をしており、平成 17 年で通算 52 号発行し、会員間のコミュニケーションを図っています。組織委員会は組織の充実、特に若手会員の出席率の向上に努めています。名簿委員会は規則正しく 5 年に 1 回の名簿改訂を行い、今年も 12 回目の改訂をし、精度の高い名簿の作成に努めています。

平成 16 年にホームページも開設しました。IT 時代に相応してより早く、より新しい情報に接することが出来、好評を得ております。

この他に、同好会としてゴルフ同好会、民謡・歌謡愛好会、囲碁同好会があり、それぞれ定期的に会合を開き、会員の親睦を深めています。



[戻る](#)

# 横手城南高等学校 银杏同窓会 東京支部

支部長 小林 峰子

秋高連創立20周年おめでとうございます。

県内の高校が1つにまとまって東京で会を持つということは非常に意義深いことで、これからも益々相互の親睦を深め協力し向上を計り、古里秋田の発展の為に貢献してゆけたら喜ばしいことと思います。城南同窓会東京支部も発足して21年になります。毎年10月頃に150名程の参加者を得て賑やかに総会を開いております。当番幹事は還暦2年前の期の人達が順送りで開催してくれますので会場や催物等毎年変わるのも楽しみの一つになっています。昨年(17期卒当番)は西馬音内盆踊りや横手ぶどうも出て皆大喜び、校長先生や本部同窓会会長様のお話も色々お聞きし十代にタイムスリップした思いでした。

在京同窓会は3,000名程居ますが年会費(千円)の納入者は600名位です。でも会報や総会の通知は皆それぞれの思いで待って下さっているようです。本校は昨年創立90周年を迎え同窓会員は2万2千人を越え、立派な新校舎で県立女子高校として素晴らしい発展と活躍をしておりますが、県の方



針で20年度から共学開始になる計画案が出ているとのこと、反対したい気持ちも強く、複雑な思いです。

横手市も合併して大きく広くなりました。時代の流れで古里も色々変化してゆきますが、遠く離れていては、唯ひたすらに古里の発展と在郷の人達の幸多きことを祈り、美しき自然・山と川にいつでも会えて「ありがとう」と云える古里であってほしいと願うのみです。同窓会はふるさととのパイプ役となり、少しでもお役に立つことが出来れば嬉しいと思っております。校歌にあります「银杏の葉形末広く……」同じ秋田の土地から出て来た私達。これからも仲良く共に末広くなりますよう頑張りましょう。

秋高連の益々の発展と各校各位の御活躍、御健勝を祈念致しております。

[戻る](#)

# 横手工業高等学校 関東同窓会

幹事長 高橋 実

## 秋高連の20周年を祝う

20周年を迎えられおめでとうございます。

秋高連が産声を上げられたのは20年前、県人会やら何々会等の旗揚げには難しい当時の時代背景のなかで、大変な取り組みをされたと評価しています。特有の粘り強さを発揮し役割を果たされた役員ならびに関係各位の皆様、横手工業関東同窓会挙げて心から敬意を表し思い出深い20周年を共に振り返りお祝いしたいと存じます。

県下のOB健児が東京で集うとなれば血が未だ疼くのです。親睦交流、組織友好等をプロデュースする秋高連の役割は素晴らしく更なる工夫で揺るぎないご発展を期待して止みません。

折角ですので活動の近況を紹介致します。

横手工業関東同窓会は佐藤芳蔵新会長からなる新体制が発足しました。新会長はS27卒とは思えぬ若造りスタイルで活躍しています。構成する一組織として協力惜しまず連携は深くを基本姿勢とします。

紹介する一つは、会員3千余名、毎年定例総会(150名)ゴルフ交流(50名)各学年五科の縦系列・同期横系列の交流拡大を当面の課題。総じて活動を☆☆☆と評価は甘いが新顔の参加が活性化策と役員一同大張り切りです。今秋の総会に向け秘策を練り上げ中で役員が活性化されています。

二つには母校「若蔦の横工」が「県立清陵学院」に継承されました。県内では初の中高一貫校として昨年スタート。18年度末には中学校、高等学校とも第1期の卒業生が誕生します。

一方、横工卒業生は17年度末の180名をもって終了、1万7千余名の卒業生を輩出して63年間の歴史に幕を降ろし、同窓会も含めて清陵学院に引き継がれることとなります。関東同窓会は当面(18年度迄)は変化なく推移することになります。

最後に、若蔦の校章から「山と川のある町」と清陵(流)のSを表現した校章に移行されることを紹介し、変わらぬお付き合いをお願いいたします。



[戻る](#)

# 本荘高等学校 東京同窓会

会長 飯田金廣

## 多彩な活動を繰り広げる

本荘高校東京同窓会は、昭和11年5月に旧制本荘中学校同窓会東京支部として発足した、古い歴史を持っている。しかし敗戦後の混乱により、同窓生の消息不明が増大し、しばらく活動を中止せざるを得なかった。戦後、東京同窓会が復活したのは、昭和41年5月であった。平成18年には第40回目の記念総会を迎えようとしている。

現在首都圏に3,200名以上の会員がおり、毎年会報として6ページにわたる新聞「鳳山児水」を発行して、会員への情報の提供に努めている。またすでに2回にわたり部厚い「文集」も発行してきた。

わが同窓会の特色は、同好会の活動が多岐にわたっていることである。ハイキング同好会は、毎年20数名の参加者があり、今までに踏破した地名は、南高尾山陵、伊豆ヶ岳、弘法山、日の出山、子の権現、丹沢の大山、大磯の高麗丘陵、多峯山と続き、いずれも新緑の息吹を満喫している。

大相撲同好会は、主として5月に国技館に集まり、夏場所を観戦している。若乃花が連続優勝して横綱に推挙される頃から始まり、武蔵丸の優勝推挙、その後の三横綱の引退と、朝青龍の横綱昇進を見守ってきた。

プロ野球同好会は、東京ドームでの野球を観戦している。ペナントレースが白熱する頃、巨人・阪神戦を主として、巨人・中日戦、巨人・ヤクルト戦を交互に観戦している。

鎌倉を知り尽くしている同窓生の案内で、5月の風に吹かれながら毎年コースを変えて、社寺を中心とした鎌倉散策も楽しい行事の一つである。

ゴルフ同好会は、親睦を深めながらも、ある程度格調高く行っている。また、3年前から東京宝塚を観劇する同好会も発足した。

同窓会総会後には、8年前から卒業生を講師とした講演会を開催して、できるだけ多くの同窓生が出席するよう工夫を図っている。



[戻る](#)

# 由利高等学校

## ゆりの会 東京支部

支部長 小笠原 了子

由利高校は大正9年本荘町立実科女学校、県立本荘高等女学校、現高校となり、同窓会の名称は「ゆりの会」と称し、本部事務局は母校内に在ります。

東京支部は幾つかある支部の一つで昭和37年に結成され、現在は関東圏内を中心に2,000名弱の会員となっています。組織は支部長、副支部長の役員、種々の助言をいただく顧問、また、重要事項は十数名からなる幹事会において検討・決定しています。

なお、これらは全て会員の年会費により運営されています。

毎年1回総会を開催（本年は第43回）し、この実施は事務局を中心に行われています。事務局は2学年で当たり、1学年ずつスライドする方法で縦・横の繋がりが採れるように工夫されています。年1回の本部総会への出席、支部総会には同窓会会長、事務局幹事、校長先生をご招待し情報交換をしています。

平成16年1月に母校において大江健三郎氏のご講演が同窓の校長先生の働きで実現し、「彼女たちのこれからの期待したい。地に足がついている感じだ。」等と評価され、生徒の皆さんは自信を持ったことと思います。また、母校は平成19年から共学化となり、これに伴い学科再編がなされ、国際科ができる等時代の要請に応じた内容になるようです。

同窓会の関わり方にも変化を求められることも考えられますが、母校の発展は同窓生にも力を与えてくれることと思います。

同窓会に寄せる思いも少しずつ変化し、毎回120名前後の参加者数ですが、先々になって心の許し合える仲間作りの一助にでもなればと願いつつ、大切に続けていきたいと思っています。

秋高連20周年に当たり、各高校の皆様との連携も大切にしていきたいと考えます。



[戻る](#)

# 由利工業高等学校 東京同窓会 桃源会

会長 畑山 敏也

秋高連結成 20 周年を心からお慶び申し上げます。  
一口に 20 周年とはいうものの、歴代の役員の皆様のご努力に対し敬意を表したいと思います。  
我々由利工業高校の場合、他校の皆様と比べ歴史も浅く第 1 期生がまだ還暦になっていない状況です。  
従って秋高連発足当初は、1 期 2 期でも 30 才代ということですから、他校の大先輩の皆さんを末席で見学しているという状況であったことを記憶しております。

現在になってようやく、他校の出席されている皆さんと同じ目線で話ができるような年令になりました。

年令と共に、故郷がなつかしくなり、又、同郷というだけで親しみをおぼえるものですが、母校も 3 年前 40 周年の記念行事を行い又、校舎も全く新しく建築され昨年竣工式が行なわれたばかりです。

今まであまり同窓会としての活動を活発にしてこなかったわけですが、多くの後輩の為にも、同窓生として世代交代しながら継続していけるようもう一度やり直してみようと思います。

他校同窓会の皆様のご指導をいただきながら活性化させることが、最終的には秋高連の発展の為の一助となることと思います。

20 周年を機に秋高連が益々発展されますよう祈念申し上げてお祝いとします。



[戻る](#)

# 西目高等学校

## 新志芽会 東京支部

支部長 兵 藤 喜 一

我が西目高校は昭和 17 年 4 月に県立西目農業高校として開校し、昭和 23 年 4 月に学制改革で県立西目農業高等学校と改称され、又昭和 63 年 4 月に学科再編により県立西目高等学校に改称され現在に至っております。

平成 8 年には、学科改編により総合学科が新設されました。平成 14 年には創立 60 周年記念式典が行われ、それと同時に校歌も新しくなり農業高校時代の同窓生としては全く新しい学校になった感があります。ただし、校訓である「自彊不息」（自分自身を励まし、継続して努力すること）を条件に新しい西目高校は勉強に、スポーツに、頑張っており西目高校の同窓生だと自慢の出来る学校になりました。

新志芽会は母校に本部を置き各地域に支部があり、関東地域には千葉、神奈川、東京にありそれぞれに活動しています。

さて我々東京支部ですが、年次は確認できないので記しませんが関東支部として一時期活動していましたが暫く休眠状態でした。平成 9 年に前支部長の村上芳栄氏が東京在住者、勤務者を対象に住居及び勤務地の確認調査を行い新しい名簿を編成し、改めて東京支部を発足しました。それからは定期的に毎年 7 月に総会、懇親会を開催しています。

開校当時の話などを聞くと勉強するような環境でなかったなかで学校を卒業して東京に就職して相当の地位に上った先輩方にはただ感心するばかりです。その一方で若い同窓生が増えないというのが寂しい限りです。

秋高連 20 周年とのこと、遅ればせながらおめでとう御座います。役員、幹事の方の努力には感謝しています。秋高連の益々の発展を心から祈念申し上げます。



[戻る](#)

# 矢島高等学校 拓道同窓会 関東支部



平成十六年総会  
(上野精養軒にて)



## 「拓道同窓会」 関東支部

|      |        |      |        |
|------|--------|------|--------|
| 支部長  | 小石 実   | 副支部長 | 保田 完次  |
| 副支部長 | 松田 淳   | 副支部長 | 三浦 シゲ子 |
| 副支部長 | 佐藤 十八郎 | 副支部長 | 稲垣 常子  |
| 副支部長 | 山下 ユキ子 | 副支部長 | 高木 正子  |
| 副支部長 | 佐藤 宗男  | 事務局  | 藤原 龍治  |
| 副支部長 | 畠山 武   |      |        |

[戻る](#)

# 湯 沢 高 等 学 校 東 京 愛 宕 会

会 長 長 瀬 良 市

秋高連創立 20 周年記念、誠におめでとうございます。

我が母校湯沢高校は、2003 年に創立 60 周年を迎えました。同窓会名は愛宕会と称し、湯沢市の学校裏山の愛宕神社から命名されました。現在は、湯沢、東京、秋田、仙台の 4 地区で精力的に活動を行っております。

奇数年度の秋には総会を開催し、偶数年度には同期会等を行い親睦の輪を広げております。

総会には、学校長を始め、市長、同窓会会長なども出席し、母校や郷土の現況をお話しされ、また、各界でご活躍されている方々にもお話をお願いし、総会を盛り上げていただいております。

秋高連の益々の躍進と東京愛宕会の発展のため、関係各位の皆様とのご交歓、親睦のほどをよろしくお願いたします。



[戻る](#)

# 湯 沢 北 高 等 学 校

## 鈴 懸 同 窓 会 東 京 支 部

会 長 山 田 雅 子

秋高連、創立 20 周年おめでとうございます。

湯沢北高鈴懸同窓会は昨年、大山東京支部長から引継ぎをいたしました。大山支部長は総会の開催や秋高連などで存分にお仕事を果たされました。

3年に一度の総会ですが、母校での思い出が一気に甦り、時の経つのも忘れるほどの楽しいひと時を過ごすことができる一日を待ち望んでいらっしゃる方も多いと思います。秋田、東京と遠く離れてはいても秋田！そして湯沢北高校という共通のキーワードの核に強い絆を感じざるを得ません。一人でも多くの会員に参加してもらえよう努力しなければなりません。経験豊かな先人、先輩や役員の方々が築かれた立派な基礎と土台があればこそ、その努力も実を結ぶものと思います。

わが母校はすでに創立 80 年を超える長い歴史を刻んだ女子高校ですから同窓会の会員数も非常に多く、当然、東京支部の会員も多数に上ります。しかし母校の名簿を手にしますと、ある時期から次第に卒業生の首都圏での減少が大きいことに気づきます。郷土の人口減少がここにも現われているのでしょうか。周辺地域との合併もあり、母校も統合、学科編成、共学化などの問題で同会本部が大変な努力をされていることも聞いております。政策や時の変化で致し方ないこととは思いますが、歴史ある湯沢北高校という校名が変わらないよう今は祈りたいところです。



[戻る](#)

# 湯沢商工高等学校 首都圏まほろば会

幹事長 石 垣 勉

「秋高連創立 20 周年記念」誠におめでとうございます。

我が母校もお蔭様で、本校創立 40 周年を迎える事となりました。

当会も 7 月に「アルカディア市ヶ谷」に於いて 40 周年記念総会を開催いたしました。総会には秋高連の役員の皆様はじめ、学校関係、本部まほろば会会長他、関係各位のご出席のもと大勢の会員の出席をいただき盛大に記念総会を催す事ができました。

特に今年は、創立 40 周年記念の特別の記念事業でもあり、役員はじめ、各卒業年度のリーダーを中心に幅広く参加を募る事に徹して一丸となって会を盛り上げる事ができました。

当会も、毎年新会員及び同窓会の激励、親睦を中心に会を開催してまいりました。昨今少子化の影響で新会員が減り、又前年参加しても翌年には田舎に帰ったり、連絡のとれない会員が多数で、参加者が極端に減る傾向にあり、対策に苦慮しているのが現状でございます。

どうしても時間に余裕のある年代に成らないと、学校関係の行事には参加していただけないようです。

当会も毎年、役員会を 4～5 回設けて、今回の反省会や次回のスケジュールなどを決定しておりますが、その都度話題の一番が「若い人達の参加が少ない」何故？何故？とこの問題に意見が集中してしまいます。「故郷を、学校を」重んじなくなってしまったのでしょうか。

これからも、秋高連の会に積極的に参加して、県内の各高校の代表の皆様方と親密なるお付き合いをお願い申し上げますと共に、秋高連の益々の発展、強いては、我が会の発展のために、今後ともより一層のご交流のほど、よろしくお願い申し上げます。



[戻る](#)

# 資 料

# 在京秋田県高等学校同窓会連合会会則

- 第 1 条 本会は、在京秋田県高等学校同窓会連合会（略称・秋高連）と称する。
- 第 2 条 本会の事務所は、会長宅に置く。
- 第 3 条 本会は、秋田県高等学校同窓会在京支部の会員を以て構成する。
- 第 4 条 本会は、会員相互の連絡を密にし、その親睦を図り、秋田県との緊密な連繫をとり、各母校並びに県勢の発展に貢献することを目的とする。
- 第 5 条 本会は、前条の目的を達成するため、必要に応じて行事を行なう。行事は在京支部の代表者（委員）による委員会の議を経て之を定める。
- 第 6 条 本会に、次の役員を置く。役員は委員中から選出する。
- |       |     |
|-------|-----|
| 会 長   | 1 名 |
| 副 会 長 | 若干名 |
| 幹 事 長 | 1 名 |
| 副幹事長  | 若干名 |
| 会 計   | 2 名 |
| 監 査   | 2 名 |
- 第 7 条 会長は、本会を代表し、本会を統轄する。  
副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは之を代理する。  
幹事長は、会長の指示に従い会務を処理し、副幹事長は幹事長を補佐する。  
役員は役員会を構成し、本会の重要事項を審議する。  
会計及び監査は、各々その職務を担当する。
- 第 8 条 役員任期は、4月1日より2年間とし再任を妨げない。
- 第 9 条 役員は、任期満了後でも、後任者が就任する迄は、なおその職責に任ずる。
- 第 10 条 本会に、顧問及び相談役を置くことが出来る。  
顧問及び相談役は、正、副会長が推薦し、委員会の承認を受けるものとする。
- 第 11 条 本会は、毎年1回委員会を開き、次の事項を審議する。
1. 行事報告
  2. 決算の承認
  3. 予算の承認
  4. 役員を選任
  5. その他重要と認める事項
- 第 12 条 本会は、必要に応じ総会を開くことが出来る。
- 第 13 条 役員会及び委員会は、必要の都度会長がこれを招集する。
- 第 14 条 すべての会議の議長は、会長が之に当る。
- 第 15 条 本会の経費は、委員会において決定する会費及び寄付金、其の他の収入をもって之に充てる。
- 第 16 条 本会の会計は、4月1日に始まり3月31日に終る。

(付則)

1. 此の会則は、昭和61年6月9日に制定する。
2. 此の会則の一部改正は、平成2年6月28日より施行する。
3. 此の会則の一部改正は、平成4年4月1日より施行する。

[戻る](#)

## 在京秋田県高等学校同窓会連合会（秋高連）年表

| 年月日               | 事項                                      | 会場              | 摘要   |
|-------------------|---|-----------------|--|
| 1982 (昭57) 4月23日  | 連絡会初会合・発起人会                             | 丸ノ内ホテル<br>“鶴の間” | 幹事校＝秋田(金谷)秋田北(三浦)横手(戸部)鳳鳴(成田)秋商(柴辻)秋工(谷藤)大農(畠山)本荘(荒川)湯沢(佐々木)能代北(斉藤)能代工(成田)   |
| 1983 (昭58) 1月8日   | 第二回連絡会                                  | 小田急ハルカ<br>“豪華”  |  |
| 1984 (昭59) 9月21日  | 第三回連絡会総会                                | グランドパレスホテル      | 佐々木知事、秋田放送   |
| 1985 (昭60) 10月15日 | 第四回連絡会総会                                | 市ヶ谷会館           | 土田防衛大学長<br>鈴鹿出納長、秋田テレビ放映   |
| 1986 (昭61) 11月13日 | 第一回連絡会(改称総会)<br>会則、役員決定<br>初代会長・金谷勇(秋田) | グランドヒル市ヶ谷       | 県教育庁・永井隆一<br>サキガケ支社長・森田昭<br>各校校歌発表<br>27校250名                                |
| 1987 (昭62) 11月5日  | 第二回連合会総会                                | グランドヒル市ヶ谷       | 教育次長・佐々木専造<br>ソプラノ歌手・吉元恵子<br>25校200名   |
| 1988 (昭63) 11月24日 | 第三回連合会総会<br>二代会長・畠山達郎(大曲農)              | グランドヒル市ヶ谷       | 副知事・丸山寛<br>東京事務所長・鈴木再吉<br>金谷前会長に花束贈呈<br>花柳徳次梅(城南)歌<br>佐々木一夫(大農)歌<br>30校・230名 |
| 12月13日            | 忘年会                                     | 新宿アリタリヤ         | 32名出席  |
| 1989(平成元年) 6月24日  | 委員総会<br>佐々木幹事長提案<br>略称“秋高連”決定           | 飯田橋会館           | 32校40名   |
| 9月5日              | 隅田川屋形船親睦会                               | 東京湾             | 23名  |
| 11月20日            | 第四回秋高連総会                                | グランドヒル市ヶ谷       | 教育長・橋本顕信<br>花柳徳次梅(城南)踊り<br>32校・250名  |
| 1990(平2) 6月28日    | 委員総会<br>役員改選 全員再選                       | 飯田橋会館           | 27校38名   |
| 11月27日            | 第五回秋高連総会<br>(結成五周年記念)                   | グランドヒル市ヶ谷       | 斉藤出納長<br>仙南村中田勤村長講演<br>花柳徳次梅(城南)歌と踊り<br>合唱<br>35校350名                        |
| 12月24日            | 忘年会                                     | 池袋「小林」          | 記念テレホンカード作成<br>30名   |
| 1991(平3) 6月27日    | 委員総会                                    | 飯田橋会館           | 秋の総会を6月～7月に開催  |
| 7月24日             | 第六回総会                                   | グランドヒル市ヶ谷       | 副知事・池田竹三郎<br>教育庁参事・岡部宣夫<br>モダンカンカン・小松千春<br>植竹恭子(バスガイド)<br>30校300名            |

戻る

|           |       |                             |                           |   |
|-----------|-------|-----------------------------|---------------------------|---|
| 1992 (平4) | 3月26日 | 委員総会<br>第三代会長・佐々木富也<br>(湯沢) | 飯田橋会館                     | 3月7日役員会選挙 会長<br>参考 三名連記<br>34校 286名   |
|           | 6月22日 | 第七回総会                       | グランドヒル市ヶ<br>谷             | 県出納長・斉藤長<br>県入連合会長・渡部建蔵<br>県人会幹事長・窪谷政二郎<br>東京事務所長・佐々木専造<br>34校 286名                   |
|           | 9月20日 | 旅行                          | 足利学校と豪族料<br>理             | 歌・峯、藤高<br>モダンカンカン・小松千春<br>24名   |
|           | 12月1日 | 忘年会                         | 市ヶ谷・安具楽                   | 45名   |
| 1993 (平5) | 4月9日  | 委員総会                        | 理窓会館                      | 29校 34名   |
|           | 5月13日 | 県東京事務所・秋田魁<br>新報・役員三者座談会    | 吾作会館                      | 12校 21名   |
|           | 7月26日 | 全体総会                        | グランドヒル市ヶ<br>谷             | 岡部教育次長、川越調整主幹、草薙東京<br>事務所長他8名<br>33校 270名   |
|           | 12月2日 | 忘年会                         | 神楽坂                       |   |
| 1994 (平6) | 3月26日 | 委員総会                        | 理窓会館                      |   |
|           | 4月19日 | 知事招待・横手招待・横<br>手ふるさと村オープン   | 秋田県横手市                    | 会長・佐々木富也  |
|           | 7月19日 | 全体総会                        | サンケイ会館                    | 佐々木知事、柳田本荘市長、池田教育課<br>長、大久保課長補佐、草薙東京事務所長<br>他9名、36校 282名                              |
|           | 9月9日  | 旅行                          | 谷川岳ロープウェ<br>イ・ロックハート<br>城 | 22校 48名   |
|           | 12月2日 | 忘年会                         | 市ヶ谷・安具楽                   |   |
| 1995 (平7) | 4月5日  | 委員総会                        | 理窓会館                      | 31校 35名   |
|           | 6月5日  | サキガケ渋谷支店長<br>歓迎座談会          | 吾作会館                      | 役員 7名   |
|           | 6月16日 | 委員総会                        | 理窓会館                      | 余興・花柳徳次梅<br>モダンカンカン・小松千春<br>池田教育課長、湯沢市長・二坂信邦<br>ゲスト、オリンピック金メダリスト・遠<br>藤幸雄<br>39校 310名 |
|           | 7月17日 | 全体総会                        | グランドヒル市ヶ<br>谷             |   |
|           | 9月22日 | 委員総会                        | 理窓会館                      | 29校 39名   |
|           | 12月1日 | 忘年会                         | 市ヶ谷・安具楽                   |   |

[戻る](#)

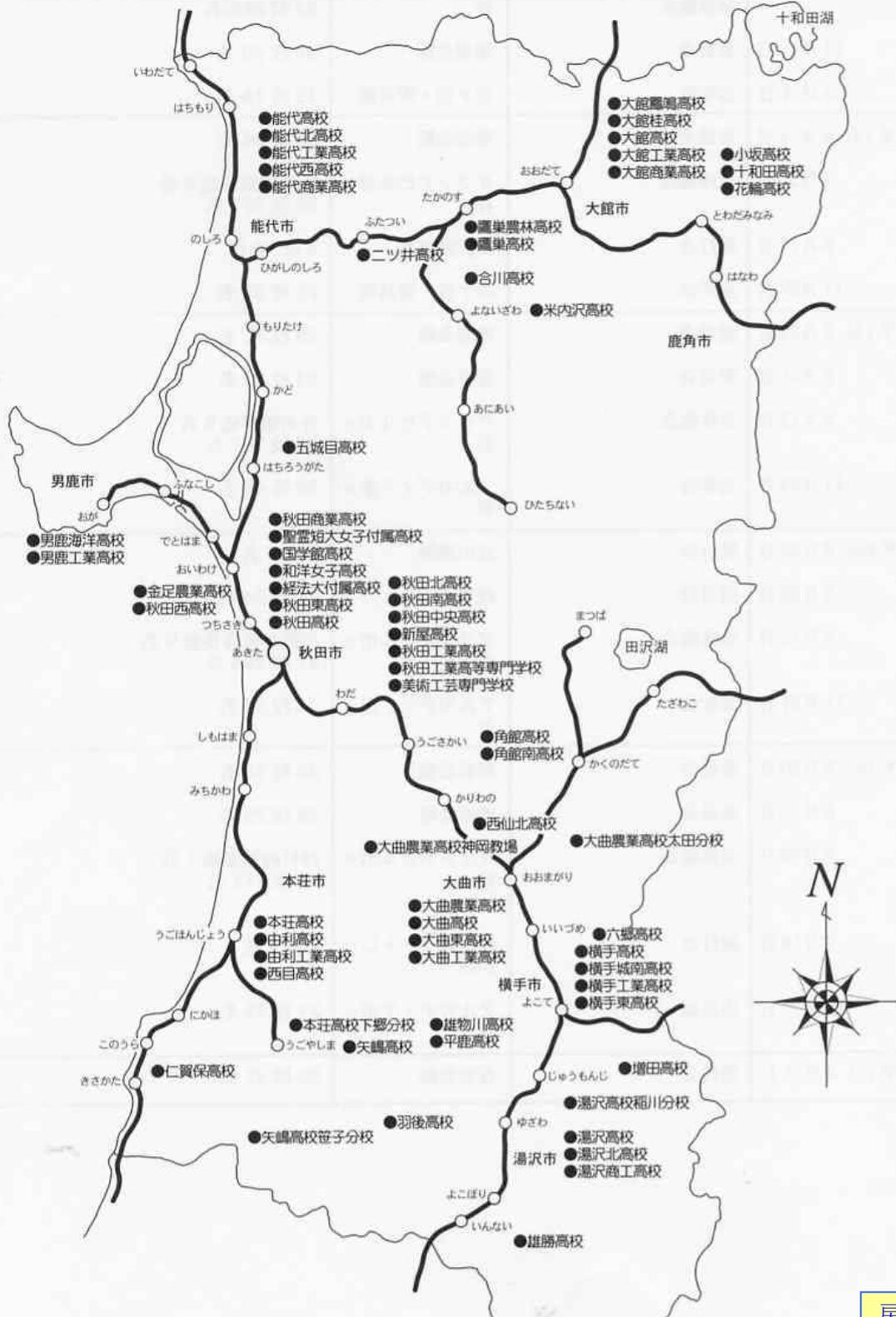
|            |        |                               |                |                        |
|------------|--------|-------------------------------|----------------|------------------------|
| 1996 (平8)  | 3月28日  | 委員会<br>第四代会長・澤木誠一<br>(秋田工) 選出 | エミール           | 27校 29名                |
|            | 5月15日  | 委員会                           | 理窓会館           | 22校 25名                |
|            | 7月9日   | 委員会                           | 理窓会館           | 21校 26名                |
|            | 7月17日  | 全体総会                          | サンシャインプリ<br>ンス | 佐々木知事他 15名<br>36校 263名 |
|            | 11月29日 | 忘年会                           | 市ヶ谷・安具楽        | 18校 35名                |
| 1997 (平9)  | 3月6日   | 委員会                           | 理窓会館           | 26校 29名                |
|            | 6月20日  | 委員会                           | 理窓会館           | 23校 23名                |
|            | 7月15日  | 全体総会                          | サンシャインプリ<br>ンス | 寺田知事他 15名<br>36校 252名  |
|            | 9月19日  | 委員会                           | 理窓会館           | 25校 26名                |
|            | 10月23日 | 旅行会                           | 秋田県庁他          | 8校 8名                  |
|            | 11月28日 | 忘年会                           | 市ヶ谷・安具楽        | 18校 37名                |
| 1998 (平10) | 3月27日  | 委員会                           | 理窓会館           | 29校 34名                |
|            | 5月8日   | 委員会                           | 理窓会館           | 27校 29名                |
|            | 7月15日  | 全体総会                          | サンシャインプリ<br>ンス | 寺田知事他 12名<br>37校 264名  |
|            | 7月18日  | 旅行会                           | 秋田北空港他         | 5校 5名                  |
|            | 9月21日  | 委員会                           | 理窓会館           | 28校 28名                |
|            | 12月4日  | 忘年会                           | 市ヶ谷・安具楽        | 14校 29名                |
| 1999 (平11) | 3月25日  | 委員会                           | 理窓会館           | 34校 37名                |
|            | 6月11日  | 委員会                           | 理窓会館           | 29校 29名                |
|            | 7月13日  | 全体総会                          | サンシャインプリ<br>ンス | 坂東副知事他 11名<br>36校 262名 |
|            | 9月7日   | 委員会                           | 理窓会館           | 26校 26名                |
|            | 10月8日  | 旅行会                           | 雄勝湯沢地区         | 12校 20名                |
|            | 12月3日  | 忘年会                           | 市ヶ谷・安具楽        | 18校 38名                |

[戻る](#)

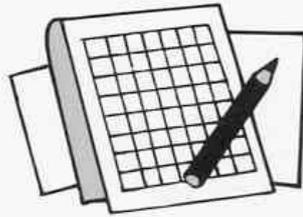
|             |        |                    |                |                         |
|-------------|--------|--------------------|----------------|-------------------------|
| 2000 (平 12) | 3月29日  | 委員会                | 理窓会館           | 32校 32名                 |
|             | 5月23日  | 委員会                | 理窓会館           | 29校 30名                 |
|             | 7月24日  | 創立 15 周年記念<br>全体総会 | グランドヒル市ヶ<br>谷  | 寺田知事他 8 名<br>37校 268名   |
|             | 11月10日 | 委員会                | 理窓会館           | 25校 26名                 |
|             | 12月 1日 | 忘年会                | 市ヶ谷・安具楽        | 12校 18名                 |
| 2001 (平 13) | 4月 5日  | 委員会                | 理窓会館           | 32校 34名                 |
|             | 7月27日  | 全体総会               | グランドヒル市ヶ<br>谷  | 千葉副知事他 9 名<br>36校 271名  |
|             | 8月17日  | 旅行会                | 田沢湖温泉          | 9校 10名                  |
|             | 11月27日 | 忘年会                | 市ヶ谷・安具楽        | 21校 45名                 |
| 2002 (平 14) | 3月29日  | 委員会                | 理窓会館           | 29校 32名                 |
|             | 5月21日  | 委員会                | 理窓会館           | 24校 29名                 |
|             | 7月12日  | 全体総会               | グランドヒル市ヶ<br>谷  | 寺田知事他 8 名<br>36校 267名   |
|             | 11月29日 | 忘年会                | アルカディア市ヶ<br>谷  | 20校 46名                 |
| 2003 (平 15) | 4月26日  | 旅行会                | 立山黒部           | 4校 4名                   |
|             | 5月30日  | 委員会                | 理窓会館           | 31校 34名                 |
|             | 7月15日  | 全体総会               | グランドヒル市ヶ<br>谷  | 小野寺教育長他 9 名<br>37校 284名 |
|             | 11月27日 | 忘年会                | アルカディア市ヶ<br>谷  | 24校 54名                 |
| 2004 (平 16) | 3月30日  | 委員会                | 理窓会館           | 35校 43名                 |
|             | 6月25日  | 委員会                | 理窓会館           | 28校 29名                 |
|             | 7月29日  | 全体総会               | グランドヒル市ヶ<br>谷  | 西村副知事他 7 名<br>36校 271名  |
|             | 9月18日  | 旅行会                | 秋田リゾートしら<br>かみ | 7校 7名                   |
|             | 12月 1日 | 委員会                | アルカディア市ヶ<br>谷  | 24校 38名                 |
| 2005 (平 17) | 4月15日  | 委員会                | 理窓会館           | 35校 37名                 |

[戻る](#)

# 各高校所在地案内図



[戻る](#)



## 編集後記

平成 16 年 4 月、秋高連副幹事長を拝命し、たまたま今回の秋高連 20 周年記念誌の編集長に任命された訳ですが、はたして自分に出来るかなと云う一抹の不安を抱きながらも、意を決して、お引き受けしました。

真先に考えた事は、秋高連加盟の各同窓会は出身母校の愛校のもとに結集し、各々が母校に対する自負と誇りを堅持して、秋高連に参集して来ている事を思えば、各校同窓会の現況を 20 周年記念誌のメインにしなければならないと考えました。そしてよりアカデミックに、よりシンプルにをモットーにして各々の高校同窓会の現況を秋高連傘下の他校の同窓会会員にも知って戴けたらと云う想いで編集を心掛けたつもりであります。

今回の 20 周年記念誌の刊行にあたり加盟同窓会各位様より多数の貴重な現況の文章と写真等をご提供戴きご協力賜りましたことに対してまして、心より感謝を申し上げ御礼申し上げます。又編集委員の方々、特に澤木会長、武藤副会長、友成幹事長、布田会計には多大のアドバイス等を戴きありがとうございました。

尚、記念誌作成の過程に於ては太田印刷さんには、多くのご指導とご協力戴きましたことを心よりお礼申し上げます。

不慣れな点多々あり、必ずしも満足出来る記念誌とは云えないかも知れませんが、その点ご容赦をお願いし、又貴重な沢山の写真等ご提供戴きながらスペースの都合で割愛せざる得なかったものがありましたこと心よりお詫び申し上げます。

秋高連 20 周年記念誌編集長  
秋高連副幹事長  
(出身母体、能代高校東京同窓会)

島山 信孝

秋 高 連  
創立 20 周年記念誌

---

平成 17 年（2005）7 月 20 日発行

編集発行 在京秋田県高等学校同窓会連合会

会長 澤 木 誠 一

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-18-1 第 10 森ビル 8F

☎ 03 - 3501 - 0938

印 刷 大森太田印刷有限公司

〒143-0015 東京都大田区大森西 2 - 15 - 21

☎ 03 - 3765 - 1779

